

緑豊かでゆとりと潤いのある快適な環境と美しい景観の創造をめざして



日造協ニュース

Japan Landscape Contractors Association NEWS

2013 8.10

第 473 号

発行：一般社団法人日本造園建設業協会 編集：広報活動部会 <http://www.jalc.or.jp>
〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-2 本郷二村ビル4階 TEL:03-5684-0011 FAX:03-5684-0012

- 2面【学会の目・眼・芽】人をつなぎ、広げる
(公社)日本造園学会幹事・東京大学大学院農学生命科学研究科助教 大久保 悟氏
- 2.3面【特集】日造協・事業委員会の取り組みについて
事業企画部会／造園フェスティバル推進部会
人材育成部会／要望・提言活動部会
- 4面【ふるさと自慢】大阪府
歴史と文化の面影残す天王寺七坂 文人達にも愛された口縄坂の風景
木山 沙季氏（京阪神グリーン株）
【緑滴】街路樹剪定士制度の活用
田中 和紀氏（株）園田グリーンセンター）
全国労働衛生週間 2013/10/1-10/7 準備期間 9/1-9/30
【委員会等の活動】／【事務局の動き】／【編集後記】



全国事務局連絡会議の冒頭、あいさつする藤巻司郎会長

平成 25 年度 全国事務局連絡会議を開催

日造協は全国事務局連絡会議を開催し、一般社団法人移行後の諸規程や平成 25 年度事業について、各担当委員会の説明、昨年度の総支部・支部交流会の意見や今年度の開催についての報告などを行った。

日造協は 7 月 25 日、東京都千代田区紀尾井町の都市計画会館で、全国事務局連絡会議を開催した。

会議では冒頭、藤巻司郎会長が「各総支部、支部の事務局の皆様には、日頃から協会の業務運営にご苦労いただき、深く感謝申し上げます。日造協は昨年 4 月に一般社団法人に移行しましたが、早いもので 1 年が経過しました。この間、私が培ってきた「造園力」を発揮できる環境の整備、緑豊かな安全・安心で快適な環境の形成に向けて、本部と各総支部・支部との連携の強化を図りながら、造園力の社会的アピール、街路樹剪定士など

の資格制度、社会保険未加入対策、東日本大震災の復興事業における造園工事発注の促進等の要望・提言活動などに取り組み、皆様のご協力、ご支援をいただき、円滑な事業展開ができました。今年度の事業計画では、造園建設業の社会的認知度向上に向けて、要望・提言活動や社会保険等未加入対策等に取り組んでまいります。最近、景気回復への明るい兆しが見られるようになりましたが、造園建設業界を取り巻く状況は、依然として不透明な状況も見られます。通常総会で決議されました「重点実践活動 2013 決議」のもと、会員企業がさらに元気になれまますよう応援して参りたい」とあいさつ。

議事では、「一般社団法人移行後の諸規程について」①諸規程の改正について、②総支部規程・支部規程の改正について、「平成 25 年度事業について」①総務委員会より○重点実践活動 2013 決議について、○社会保険未加入対策について、○建設技能労働者の賃金水準確保のための調査について、②技術委員会より○技術情報共有発表会について、○「造園安全作業のしおり」について、③事業委員会より○全国造園フェスティバル 2013 について、○全国造園デザインコンクールについて、○造園 CPD について、○地域リーダーズについて、④資格制度委員会より○資格制度の年間スケジュールについて説明した。

その後、休憩を挟んで、「平成 25 年度事務事業の実施について」、①平成 24 年度総支部・支部交流会における意見について、②総支部・支部交流会の開催について、③平成 25 年度総支部長・支部長合同会議の開催について、④日造協行事予定について説明。意見交換では、総支部・支部からの報告なども行われ、会議の後は、都市センターホテルで、懇談会を開催した。

樹林

日造協理事、(株)道南レミック代表取締役会長

廣澤 清隆



造園家としての積極的提言・要望活動と、技術・技能の担い手の育成で業界の繁栄を

日造協北海道総支部は 1975 年に発足し、会員数が徐々に増え平成 19 年度に 44 社となり、平成 20 年度より減少に転じ、現在は 32 社となっています。

それに加え業界の次代を担う若者が不足しております。技術者及び技能者の不足は、今後益々進むといわざるを得ません。

北海道職業能力開発協会の平成 24 年度での調査結果では、造園技能士 1 級、2 級及び 3 級の有資格者は約 4,800 名がおります。この技能士の平均年齢が 57 歳となっています（技能士 1、2、3 級、約 4,800 名全員が造園業に就業してはいません）。他のアンケート調査でも造園業に従事している 60 歳以上の就業者が約 23% となっています。この統計結果を見ても、年々造園工技能者の高齢化が進んでいるようです。

このような現状を招いている原因として、建設業内での造園工事業量に絶対的な不足があります。この工事量に関しては協会員、本部事務局全体で苦労していると思います。

また、造園施工管理技士の合格が全国的に難しくなっていますが、北海道の受験生は、気候の違いなどを踏まえて、奮闘しています。

北海道ならではのエピソードですが、私が造園業界に入った頃（40 年前）、市発注の道路植栽工事案件で「しだれ柳」を植栽し、2 年ほど経ったところで、「設計書及び仕様書上では“しだれ柳”といふことで発注をした。この柳は、しだれないから“しだれ柳”ではない。すぐに“しだれ柳”と取り換えて欲しい」とクレームがつきました。

私達はいささか疑問を感じましたが、多くの造園業界の方々に見ていただき、紛れもない“しだれ柳”であることが判明し、しだれない原因は、北海道と本州との気候の違いであることがわかりました。

た。

私の住んでいる北海道苫小牧市（胆振・日高地区）は、“しだれ柳”が一年を通じて成長するのは約 60cm から 100cm くらいで、枝がしだれる前に成長が止まり、樹形が竹ぼうき状態になります。

このため、剪定の方法も関東地区と北海道、胆振・日高地区では真逆の剪定をします。活字で表すことは難しいですが、上の枝を切り、下枝を残します。そうすることで“しだれ柳”的樹形が柳らしく育ち、街路樹としての役割を果たし、一般的にいう“しだれ柳”的樹形を保っています。

北海道総支部でも一度、交流会の時に発表いたしましたが、さまざまな資格試験・検定において、北海道ではまったく育たない樹木やあまり馴染みのないものが出題されることもあり、道内の受験者には判らないことがあるようです。

日本列島の形状は、北海道最北地稚内より沖縄県最南地与那国町まで広く、北と南で気候、風土、植生が異なります。また、全国標準ではなく、地理や地域、さらには文化などへの配慮があれば、造園の特性がより明確になります。

ですから、日造協でも造園の専門家として各機関に提言、要望、意見・情報交換に取り組んでいただければと思う次第です。

このような活動によって、造園施工管理技士が現場施工の総合プロデュース役として、登録造園基幹技能者を含む造園技能者が造園技能のプロフェッショナルとして、技術と技能に優れた数多くの担い手を育て、造園業界の底上げ、領域拡大と工事量の確保を図り、合わせて、若者の仕事への情熱向上、社会から必要とされているという自覚が芽生え、未来永劫「造園・緑化業」の繁栄が達成されることを願っています。

平成 25 年度 国土交通大臣表彰 建設事業関係功労 都市計画事業関係 日造協から林輝幸副会長ら 5 氏が受賞

平成 25 年度の国土交通大臣表彰が先ごろ発表され、建設事業関係功労の都市計画事業関係として、日造協からは林輝幸副会長ら 5 氏が「多年造園工事業に精励するとともに関係団体の役員として業界の発展に寄与した」ことなどを表彰理由に、国土交通大臣表彰を受賞した。

なお、表彰式は、7 月 10 日（水）、11 時から、東京都千代田区霞が関の国土交通省 10 階共用大会議室で行われ、今年度は 213 名、5 団体が表彰された。

受賞者は以下の通り。

松本昭広氏（62）秋田市、
(株)松本造園土木代表取締役

望月勝保氏（62）千葉県習志野市、
藤木園緑化土木(株)代表取締役

林輝幸氏（61）神奈川県横須賀市、
西武造園(株)代表取締役社長

山村文志郎氏（64）滋賀県東近江市、
花文造園土木(株)代表取締役

岸野純一氏（64）鹿児島県姶良市、
青楓緑化(株)代表取締役

人事異動

国土交通省（7/16 付）

▼都市局公園緑地・景観課緑地環境室
長=町田誠（東京都建設局公園緑地部長）

特集 日造協・事業委員会の取り組みについて

事業委員長 梅川 真澄

事業委員会は造園フェスティバル推進部会、人材育成部会、要望・提言活動部会、事業企画部会の4部会で活動しております。

造園フェスティバル推進部会は、全国造園フェスティバルを2006年度から毎年実施しております。

行政や市民に対し、造園建設業の理解を深めてもらうため、沖縄から北海道まで日造協会員が、それぞれ工夫をこらしてイベントを実施しており、今までNHKはじめ、多くのマスメディアに取り上げられております。昨年度は全国70カ所で実施致しました。

人材育成部会は、今年で40回目になりますが、(一社)ランドスケープコン

サルタンツ協会、全国高等学校造園教育研究協議会との共催で、若手造園人やこれから造園分野に進もうとする学生・生徒のデザイン・設計技術の向上を図るため全国造園デザインコンクールを実施しております。

また、全国の造園建設業の若手経営者、後継者、経営幹部候補者の集まりである地域リーダーズの活動(年2回)を支援しております。あるいは会員支援事業として、各種研修会・講習会の開催と紹介などをし、また技術・技能の向上に向けた情報などを提供し、雇用改善事業として、若年者の入職促進のための人材育成及び公的資格取得の推進のための事業を実施しております。

事業委員会

委員長	梅川 真澄	(株)富士植木	東京都支部
副委員長	稻富 俊広	(有)稻富造園	徳島県支部
"	風間 啓秀	日産緑化(株)	東京都支部
"	河嶋 功	イビデンジグリーンテック(株)	岐阜県支部
"	四宮 繁	(株)四宮造園	北海道支部
"	鈴木 一彦	(株)東松園	千葉県支部
"	正本 大	みずえ緑地(株)	広島県支部
委員	酒井 利明	アルファグリーン(株)	秋田県支部
"	伊藤 志朗	(株)飛鳥ガーデン	富山県支部
"	中島 祥之	花佐造園(株)	奈良県支部
"	持田 正樹	(株)もちだ園芸	島根県支部
"	鶴田 忠嗣	(株)鶴松造園建設	佐賀県支部
"	永島 昌和	(有)桂植木	沖縄県支部

学会の目・眼・芽 第48回

人をつなぎ、広げる

(公社)日本造園学会幹事・東京大学大学院農学生命科学研究科助教 大久保 悟

2013年4月より造園学会のウェブページを刷新しました。すでにご覧いただいているでしょうか。

2011年度から、造園学会総務委員会で広報担当幹事を務めさせていただいた関係で、公益法人としての学会活動を広く一般に発信していくためのウェブページ構築をすすめて参りました。

新しいシステムでは、近年、情報交換媒体として普及が著しいSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)との連携を試みました。各お知らせ記事の最後をみていただくと、すっかりおなじみとなったFacebookの「いいね!」ボタンやTwitterの「ツイート」ボタンを確認いただけるかと思います。

これらを活用いただくと、こうしたSNSを通じて学会活動の情報共有をしていただくことが可能です。また、情報共有や「いいね!」としていただいた回数も、各記事に反映されるようになっています。システムとしてまだまだ不十分ですが、造園学会と学会員および造園関係者の皆様方と双向で情報を共有していくプラットフォームの一つになることを期待しています。

運用を開始して間もないですが、造園関係の方々が、どのような記事に反応いただいているのかを把握できるようになりました。やはり、コンペ募集や全国大会といったイベント案内記事に多く反応いただいています。

その一方で、学術論文の公開や学会

誌等の刊行お知らせには、残念ながらあまり反応がありません。

ただ、実際の記事の閲覧数と「いいね!」数にはあまり関連はないようです。それでも、SNSで多く情報共有された記事は、実際の閲覧数も多い傾向にあります。もう少し情報を蓄積していくながら、造園関係の皆様や一般の方々に興味を持ていただけるような情報発信のあり方を、造園学会で検討していきたいと考えています。

造園実務者の皆様にも新しい学会ウェブページを足繁く訪問いただき、有意義な情報には是非とも「いいね!」をお願いします。

ところで、私は調査研究で東南アジア諸国を訪問する機会に恵まれています。農村が主な調査地ですので都市に滞在する時間は短いのですが、主要都市の中心市街地には、植民地時代の影響を受けたヨーロッパ風の緑豊かな町並みが残っています。

しかし、都市への人口集中が急激に進み、無秩序な開発も多くみることができます。そのため、各都市の行政主体は都市緑地の確保に努力していますが、ランドスケープ関連の人材や技術にまだまだ限りがあるように感じます。

現在、学会のウェブページは日本語のものしかありませんが、我が国のランドスケープ計画・管理の技術を海外に紹介していくためにも、多言語による情報発信にも努めなければならないと考えています。

事業委員会の構成

(全国) 事業委員会	平成24年度事業報告、平成25年度事業計画 本部・総支部事業の情報共有
造園フェスティバル推進部会	全国造園フェスティバル開催検討
人材育成部会	全国造園デザインコンクールの開催検討 地域リーダーズの活動
要望・提言活動部会	造園緑化事業の拡大推進のための要望・提言活動方針の検討と周知、会員実態調査の実施、税制改正要望、各地方整備局との意見交換
事業企画部会	表彰者の推薦

要望・提言活動部会は、国交省の道路緑地管理工事あるいは環境省の自然環境共生工事の「造園発注」、日造協の資格制度の活用等の要望・提言活動を本部・総支部・支部が一体となって組織的・定期的に展開しております。

また、社会保険等未加入対策の推進に係る法廷福利費の確保やダンピング対策の徹底等の要望・提言活動を展開しております。

事業企画部会は、国が行う叙勲・褒章、国土交通大臣表彰、都市緑化及び都市公園整備・保全美化運動における都市緑化

功労者国土交通大臣表彰、優秀施工者国土交通大臣顕彰等の候補者の推薦などを行っております。

事業企画部会

部会長	梅川 真澄	(株)富士植木
部会委員	河嶋 功	イビデンジグリーンテック(株)
"	風間 啓秀	日産緑化(株)
"	鈴木 一彦	(株)東松園

●人材育成部会の活動 部会長 風間 啓秀

●全国造園デザインコンクール、実施計画の立案

(一社)ランドスケープコンサルタント協会・全国高等学校造園教育研究協議会との共催で実施。

デザインコンクール、応募要項の立案から、審査、表彰までを担当。

昭和49年から開催され、平成25年度が第40回目に当たります。

若者の造園における技術力の向上を計るためのアピールとコンクールのPRの実施。

全国造園デザインコンクールを通じ造園業界へより一層の若者の理解を深めより良い人材の確保に繋げていければ幸いです。

●地域リーダーズ、活動支援

造園建設業協会の次代を担う会員、若手・中堅の経営者、後継者、経営幹部の候補者が相互にコミュニケーションを深め全国各地の情報を共有し地域の活性化

を目指すと共に造園建設業協会の全国的な活性化の推進、自主的な取り組みを基本とする活動の支援を行っています。

●造園CPD

単位取得促進企画、会員各社の現場で中心となる立場の方のCPDポイント取得が難しい中総合評価による入札の条件にもCPDポイント取得が取り入れられています。

まず、自主登録の方法から始まり、年間50単位取得方法のガイド作成、周知を行っています。

人材育成部会

部会長	風間 啓秀	日産緑化(株)
部会委員	添川 秀樹	(株)理研グリーン
"	堤 明伸	(株)津々美造園
"	森川 昌紀	東洋ランテック(株)
"	山寄 信幸	(株)長遊園



第39回全国造園デザインコンクールの受賞者と審査委員を中心とする関係者で記念撮影



第39回全国造園デザインコンクールの審査会のようす

●造園フェスティバル推進部会の活動 部会長 河嶋 功

造園フェスティバル推進部会は、昨年の組織改編により、旧公益活動部会から変わり、より目的を明確にした推進活動部会です。

開催目的は、造園の技術と感性をアピールすることで、造園業の理解を深め、発展に貢献するものと思います。

また、指定管理者の自主事業としても、ビジネスに役立っています。

昨年度は、第7回を迎えた10月6日～8日（体育の日）を中心に全国70会場で開催されました。本部委員は、関東会場を中心に、今後の開催に役立てるため、フェスティバルの視察を行いました。

また、毎年開催に当たり、全国の会場担当者の方にアンケートをお願いしております。

日造協のPRができたとの声のほか、良かった点も多数ありましたが、イベント内容のマンネリ化、来場者の伸び悩みなどの問題点も深刻化しております。

今年度の課題として、イベントの内容、アンケートの内容、行政側の協力の対応策、マスコミへの対応策など、たくさんの課題がありますが、少しずつでも、改善努力し、来場者の増加を目指し、活動を推進してまいりたいと思います。

第8回全国造園フェスティバル2013は、10月12日～14日（体育の日）のコア日を中心に開催を予定しております。

今年度も多くの方々の参加、ご協力、ご支援をお願いいたします。

造園フェスティバル推進部会		
部会長	河嶋 功	イビデングリーンテック(株)
部会委員	石野 陽一	日造協東北総支部
"	岡田 茂樹	湘南造園(株)
"	関根 武	内山緑地建設(株)
"	丸 健一	住友林業緑化(株)
"	丸山 賢史	(株)日比谷アメニス
"	室橋 智	物林(株)



全国造園フェスティバルのようす
(上から、東京、島根、千葉)
花の苗や種、球根の配布や日造協や造園の紹介のほか、苔玉づくりのクラフト、花壇づくりなど、参加型イベントも人気となっている



地域リーダーズでの研修のようす（「低影響開発」アプローチのランドスケープデザインを提唱する小出兼久氏から、植栽を活用した雨水管理の思想や技術について講演いただいた）



地域リーダーズでの視察のようす（東京・丸の内周辺の景観をオープンバスで視察）

●要望・提言活動部会の活動 部会長 鈴木 一彦

要望・提言活動部会の活動は、全国的活動を展開し得る日造協でしか行い得ない事項に重点を置いて効果的な要望・提言活動の定期実施、パブリックコメントに対応した提言提案活動を適宜実施しています。

本部・総支部・支部が一体となって、要望・提言活動の実施状況に関する情報は常に日造協の会員専用ページにデータを保存する事によって共有化し、組織的に展開しています。また、必要に応じて他団体との連携を図って行きます。

東日本大震災後に於いては、震災後の早期復興に造園の持てる技術を發揮し貢献できるよう、造園建設業の活用に関する各方面への啓発、要望を行っています。

また、社会保険等未加入対策の推進に

係る法定福利費の確保やダンピング対策の徹底等の要望・提言活動を展開して居ます。

さらに、建設業法上の業種区分の見直しの動向に対応した植栽育成・管理に係わる業務の造園工事の内容・例示への追加等の要望・提言活動を適宜実施しています。

要望・提言活動部会

部会長	鈴木 一彦	(株)東松園
部会委員	内山 剛敏	内山緑地建設(株)
"	荻野 淳司	アゴラ造園(株)
"	佐々木創太	むつみ造園土木(株)
"	武井 大佐	西武造園(株)
"	藤巻 慎司	藤造園建設(株)

ふると
大阪府

大阪市天王寺区には歴史・文化の宝庫と言える史跡・寺社が集中しており、随所にさまざまな歴史の面影を見ることができます。

天王寺区の上町台地西側（夕陽ヶ丘地区）にある7つの坂道（真言坂・源聖寺坂・口縄坂・愛染坂・清水坂・天神坂・逢坂）を「天王寺七坂」といいます。

いずれも階段状や石畳状の美しい坂道で、それぞれに歴史と独特的な表情を有し、地元の人たちに親しまれています。



見上げる口縄坂（左）と見下ろす口縄坂（右）坂周辺には愛らしい猫たちがいます

その中でも、私のお気に入りの口縄坂について紹介したいと思います。

口縄坂は天王寺七坂の中で特に人気の高い坂道です。

口縄坂とは関西弁で蛇のことを言います。坂の下から見上げると蛇の腹のように見えるのが名前の由来だそうです。かの松尾芭蕉も“蛇(くちなわ)坂”の文字を当て、「口として蛇坂を下りけり」という句を詠んでいます。

天王寺区出身で『夫婦善哉』などで知られる作家の織田作之助も、口縄坂



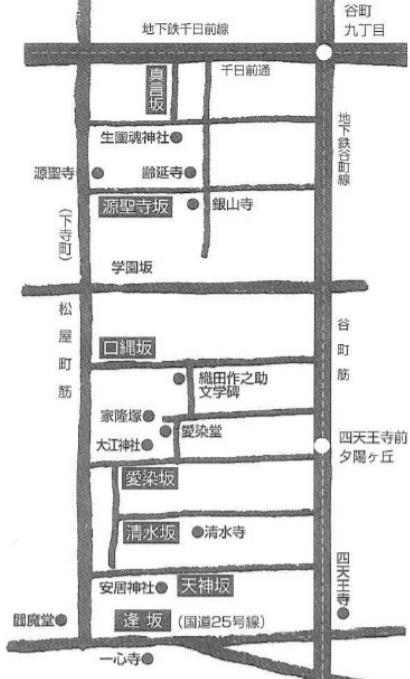
織田作之助文学碑

を舞台とした小説『木の都』の中で、「口縄坂は大阪で蛇のことである。といえば、はや察せられるように、口縄坂はまことに蛇の如くくねくねと木々の間を縫うて登る古びた石段の坂である」と描写しております。

坂の石段を登り切ると『織田作之助文学碑』があり、その碑には、『木の都』の最後の一節が刻まれております。

現在の口縄坂は、直線的に延びる石段に手すりや側溝が整備されていますが、石段は微妙に起伏があり、下から、上から、斜めからと、見る角度によってさまざまな表情を見せてくれます。

坂の上から西に向かって眺める夕陽



天王寺七坂

はとても美しいです。この辺りが夕陽ヶ丘という地名なのもそこから来ています。

大阪にお越しの際は、ぜひ口縄坂を始め、天王寺七坂に足を運んで、歴史を感じてください。

京阪神グリーン株 木山 沙季

文人達にも愛された口縄坂の風景

2013/10/1-7 準備期間 9/1-30

全国労働衛生週間

毎年恒例の全国労働衛生週間が10月1日から10月7日まで実施され、その実効を上げるために、9月1日から9月30日まで準備期間となっている。

同週間の主唱者は、厚生労働省、中央労働災害防止協会で、今年度は、「健康管理 進める 広げる 職場から」をスローガンとして全国労働衛生週間を展開し、事業場における労働衛生意識の高揚を図るとともに、自主的な労働衛生管理活動の一層の促進を図ることとしている。

全国労働衛生週間は、昭和25年の第1回実施以来、今年で第64回を迎える。国民の労働衛生に関する意識を高揚させ、労働者の健康確保に大きな役割を果たしてきたが、一般定期健康診断の結果、何らかの所見を有する労働者の割合が平成24年は52.7%とほぼ前年並みとなっており、健康診断の徹底など、健診結果に基づく保健指導や事後措置を適切に実施していくことが重要となっている。

・第2回植栽基盤診断士認定委員会（試験部会）
11(木)・社会保険等未加入対策講習会（北陸総支部）
17(木)・第2回植栽基盤診断士認定委員会
18(木)・総務委員会（社会保険未加入対策部会）
19(金)・社会保険等未加入対策講習会（群馬県支部）
22(月)・技術委員会（技能五輪部会）
25(木)・全国事務局連絡会議、意見交換会
26(金)・技術委員会（調査・開発部会）
30(火)・国交省と建専連との意見交換会
・アクションプログラム推進等特別委員会
・造園施工管理受験対策講習会（山口市）～8/1

[8月]

1(木)・運営会議
5(月)・事業委員会（造園フェスティバル推進部会）
6(火)・造園施工管理受験対策講習会（大阪市）～8/8
7(水)・総務委員会（広報活動部会）
8(木)・第3回植栽基盤診断士認定委員会（試験部会）
22(木)・造園施工管理受験対策講習会（前橋市）～8/24
27(火)・街路樹剪定士認定委員会（試験部会）
30(金)・社会保険等未加入対策講習会（宮崎県支部）

委員会等の活動

●事業委員会（人材育成部会）
第40全回国造園デザインコンクールの開催について、応募要項などについて審議した。（7/9）

●総務委員会（社会保険未加入対策部会）
標準見積書のプラスアップ、社会保険加入等に関する優良事業者認証制度の試行等を審議した。（7/18）

●技術委員会（調査・開発部会）
公園工事における造園施工管理の課題事例への対応、公園管理、みどりの発生材リサイクルに関する印刷物等について審議した。（7/26）

事務局の動き

【7月】

2(火)・社会保険等未加入対策講習会（長野県支部）
・総務委員会（広報活動部会）
8(月)・本部事務所移転先で業務開始
・社会保険等未加入対策講習会（沖縄県支部）
9(火)・事業委員会（人材育成部会）
10(水)・国土交通大臣表彰式

田中 和紀
(株)園田グリーンセンター

今年は夏の到来が早く、例年にない暑さで雨も降らず大地は乾燥し、街中のツツジ類が真っ赤に枯れていく姿をよく目にします。

この時期は管理作業に追われ、酷暑の中、沿道や公園の草刈りが続き、熱中症対策が課題となります。

最近は草刈り、樹木の伐採などの作業ばかりで木を植える仕事はめっきりと少なくなりました。

本来は造園工事業ですが、公共工事となると維持管理業務が大半を占めています。また景観を大事にするような剪定や草刈りなら街も美しくなりますが、樹が大きくなつた今では、落ち葉の清掃が大変だと住民の方から苦情があつたりすると、大きな枝を落とすことを余儀なくされることもあります。なんだか樹木が邪魔になっている“害路樹”になってしまったみたいで、伐られた樹を見るたび寂しい気持ちになります。

今後はもっと、伐木する前にどう管理していくかを話し合い、市民の皆様にとっても

木々にとっても最良となる提案をしていかなければならぬと感じています。

私たちの街では街路樹剪定土制度を大いに活用し、行政・業者・大学・関係者が街中の街路樹を「美しい街路樹をつくる」という共通の認識を持ち、一丸となつて勉強してきました。

その活動も今年で5年目を迎えます。全ての街路樹を調査するところから始まり、基本剪定や骨格剪定を行い、モデル路線を決めるなど、街路樹に特化した活動をやってきました。

街路樹剪定土制度の活用で、九州内で講師の方々やスタッフの方たちと出逢うことができ、大変お世話になりました。日造協ならではの層の厚さを感じ、感謝の気持ちでいっぱいです。

今年は産・官・学だけではなく、市民の皆様に色々な行事に参加して頂き、今まで以上にみどりの大切さを知って頂くことで、街全体でみどりを楽しむことが出来る環境づくりをやっていこうと思っています。

編集後記 毎月少しでも充実した紙面にして、皆様に満足していただこうと開いている編集会議。前回は引越しの荷物に囲まれた中からでしたが、今回は新事務所の整理整頓された快適な会議室からです。編集委員の気分も一新でき、まとめた今月号の出来ばえはいかがだったでしょうか。